



THE CITY & THE CITY Divided Senses

EXHIBITION

A COLLABORATION PROJECT BETWEEN
TOKYO AND BANGKOK

5-14 NOVEMBER 2020
AT THE JAM FACTORY GALLERY
OPEN DAILY 11.00-20.00 HRS

PRESENTED BY



BIP/M

GRANT BY



• GRANT PROGRAM FOR
PROMOTION OF CULTURAL
COLLABORATION

VENUE PARTNER

TheJamFactory.
Creativity collides here

SPECIAL THANKS TO

• THE JAPAN FOUNDATION,
BANGKOK
• CANON THAILAND

THE CITY & THE CITY

Divided Senses

BIPAM x F/T Project

The City & The City: Divided Senses

パートナー： Festival/ Tokyo

ディレクター・メンター： 長島確 (F/T), ササピン・シリワーニット (BIPAM)

参加メンバー： パカモン・ヘーメチャン、チャナポン・コムカム、櫻内憧海、
曾根千智、チャットチャワン・スワンサウッド、渡邊織音、
ピヤワン・サップサムルアム

企画： シリー・リュウパイブーン

コーディネーター・広報： ワリッサラー・ボーカード

コーディネーター： 宮武亜季、宮内芽依

宣伝美術： 斎藤拓実 (Allright Graphics)

バンコクプレゼンテーション | The Jam Factory

グラフィック・デザイン： ヌッチャ・プラピン

記録映像： ティラパン・ガオジーナーナン

パフォーマンス音響協力： マハキット・マハニラノン

会場提供： The Jam Factory

助成： 国際交流基金アジアセンター アジア・文化創造協働助成

協力： NOSEstory、Canon Thailand、国際交流基金バンコク日本文化センター

F/T x BIPAMとは?

BIPAMは、2017年より毎年、タイ・バンコクで開催されている、舞台芸術の創造にかかわる人々のためのグローバルなプラットフォーム。

フェスティバル/トーキョー (F/T) は、同時代の舞台芸術の魅力を多角的に発信し、社会における芸術の新たな可能性を追究するフェスティバル。2009年の開始以来、国内外の先鋭的なアーティストが毎年秋に集結し、演劇、ダンス、音楽、美術、映像等のプログラムを、東京・池袋エリアを拠点に、上演・実施している。

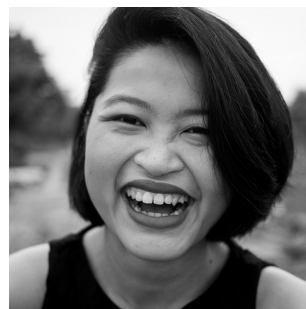
BIPAM、F/T19での双方のディレクターの長島確とBIPAMアーティストック・ディレクターのササピン・シリワーニットがディレクター、メンターをつとめている。



パカモン・ヘーメチャン（マッシュ）

ご企画いただいたBIPAMとF/Tに感謝申し上げます。

もともとコラボに関心あるが、違うジャンルとできるのは、とても貴重で面白い機会。チーム内に見解やアプローチを深く意見交換でき、新鮮な気持ちがいっぱい。オンラインで東京側との交流もできた。タイ人通訳者もいて、より意思疎通ができるように感じる。「divided sense」について考えさせられ、日常生活にある五感を前より意識するようになった。バンコクを違う角度から理解できたし、各感覚による体験やデジタルコミュニケーションで情報が交換できたから、東京の様々な顔も見られる。展覧会の形はまだ分からないけど、お互いにコラボしたい強い思いが作品に表れると信じる。



1990年バンコク生まれ。オーストラリアのVictorian College of The Arts大学（コンテンポラリーダンス専攻）を卒業後、London Contemporary Dance Schoolに進学、2014年に修士号を取得。物体、空間、時間との相関のあいだに現れるメディアとしての身体に関心を持つ。アン・エスン、ファン・スヒョン、キャビネットK、ステファニー・レイク、シータ・オストハイマーをはじめタイ国内外の多くのアーティストとのコラボレーションも行っている。『INMOST』（15）と『Love Thyself』（17）は、多くのフェスティバル/プラットフォームで上演されている。

チャナポン・コムカム（タイム）

バンコクにある「ルーティン」を「チャレンジ」のように感じさせられた。旅みたい。周りをじっくり見て、実家である街に対して自分の視点や感情を探って再発見できた。他メンバーと意見交換しながら、より楽しい旅に。それぞれの強い所が引き出され、チーム力になる。異なる背景だからこそ、今回の街の風景がはっきり見られる。

デジタルプラットフォームで東京側とも交流できた。画像、音声、文章を交換できたし、東京に存在する課題も把握できた。両チームが注目する考え方を比較したり自分に問いを投げたりして、東京のリアリティを理解できる気がする。そのおかげで、ありのままのバンコクと自分をもっと理解できた。



1995年生まれ、バンコク出身。ポーチャン芸術大学で絵画の学士号、シルバコーン大学で視覚芸術の修士号を取得。絵画、写真、サウンドアート、ビデオアート、インスタレーションアート、レディ・メイドのオブジェクトなど多様な手法を用い、17年以後はグループ展、パフォーマンスアートのショーケース、実験的サウンドアートのショーケースなどで作品を発表している。既成の芸術手法と自然による偶発的な要素、ファウンド・オブジェを組み合わせ、隣り合わせにある芸術と日常の関係を表現、現在は、21年5月の初個展に向けて準備中。

櫻内憧海

今、東京から約500km離れた場所でこのコメントを書いています。これだけ遠くに来て、都市部の風景というのは東京とあまり変わらないな、と感じています。海の方、東京から約4600km離れたバンコクチームが送ってくれた映像を見た時、目に入る文字の違いはあれど、都市部の風景というのは案外と似てるのかもな、とも感じました。

未だに出会えていない私たちは(勝手に)想像します。活気と熱気に溢れるバンコクを、ミニマルでスマートな東京を。私たちがいつか本当に出会えた時、これが東京/バンコクなのだと伝え合うために、今こうして都市と五感と向き合っているのだと思います。この劇場の中で、もしくは出た後でも、何か勝手な想像をして貰えればと思います。



1992年東京生まれ。11年の旗揚げより、劇団「お布団」に所属。大学卒業後、都内の小劇場を中心に音響家として活動するかたわら、16年より、音響・他というクレジットを用い、照明・音楽・舞台監督なども兼任するようになる。スタッフとしてどう演劇作品へ関わっていくかについて考えるため、17年に無隣館に所属。19年より青年団演出部所属。20年から、若手演出家と共に既成戯曲に挑む自主企画を立ち上げ、作品制作も行う。

曽根千智

関西から東京に移り住んで6年目になりました。いまだ地下鉄には慣れずよく乗り間違えるし、降りたことのない駅は数知れず。「暮らす」というのは「日々触れるものを知る」という行為だと思っていますが、私の身体はほんとうに東京で暮らしているのでしょうか。

バンコクとの交流の中、心に決めていたのはステレオタイプに相手の都市を見ないことでした。都市のイメージを拾うと同時に捨てながら改めて都市の輪郭に指を這わせていくその過程で、暮らしたことないバンコクにあるはずのない思い出を発見するのはとても刺激的でした。



1991年生まれ、兵庫県出身。青年団演出部所属。大阪大学卒業後、人材系IT企業にて研究開発職につくかわら、無隣館（3期）で学ぶ。現在は、演出、劇場制作、ドラマトークとして活動している。出演作品に『カレーと村民』（13）『よみちにひはくれない』（18）、演出作品に『遊行権』（19）『レシタシオン』（19）など。2019年度 セゾン文化財団創造環境イノベーションプログラム採択。

チャットチャワン・スワンサウッド

チーム内の連携と意見交換のプロセスを感動した。違う背景と分野が集まるチームだが、日常生活の形態にみんな興味を持つので、思ったよりコミュニケーションがとりやすかった。本業のジャンルが異なっている条件だからこそ、エゴやライバル感がなくなった。建築の仕事では、理論を中心するけど、今回は、比較的に感情を優先させている。

そして、日本側とコラボしながら、移動できなくても日本人と東京のリアリティが見られる。デジタルプラットフォームで、意外と世界を繋がっていると感じる。画像、音声、バーチャル的な説明などによって伝わってくる。

絶対おもしろいコラボの作品になると、ワクワク楽しみ！



1991年生まれ、バンコクのチャオプラヤ川付近のコミュニティ出身。シルパコーン大学（バンコク）の建築学部を卒業後、建築家として働く。建築物やデザイン（Urban Vernacular Design）に関するコラムを、オンライン雑誌「The Cloud」に寄稿。またLow Fat Art Fest（19）では、公共図書館でのインスタレーションワーク ショップを開催、バンコク西部の都市空間を開発する「ヤング・トン」と呼ばれるグループのメンバーでもある。現在は、自身の建築事務所「Everyday Architect & Design Studio」を立ち上げ、デザインジャーナルに日々描いたドローイングを通し、バンコクでのデザインのコアとなるアイデアを試作している。

渡邊織音

バンコクとの濃厚な共有時間が過ぎた後には、回線がひとりひとり切れていく画面を眺めて、手を振りながら最後の2人にならないように、慌てて画面を切るタイミングをみて、ボタン1つで済むことなのに、なんだか重荷に感じます。沈黙が訪れます。この瞬間から、冬支度を迎えるように、次の楽しみをかみしめて、季節が訪れる共感をなんとなく風景として向き続けられる空気が訪れているのだと思います。

身体が東京を無意識に感じている状態を、その身体が繰り返している代謝に置き換える時をじっくり感じてもらえるように滞在してみたいと、私も思います。よろしくお願いします。



1986年東京生まれ。構造設計・舞台美術家。福島・NPO法人野馬土理事。京都・北山舎メンバー。17年よりグループ・野原に参画。大学在学中より自力建設を通した震災支援や、海外WSを中心とした活動に関わり続け、設計事務所を経て現在に至る。民家を改修しながら生活し、日常の中で失われていくものや、取り残されている姿・風景をじっくりと見つめる。近年の舞台美術として、ハチス企画『ハッピーな日々』（19）、ヌトミック『それからの街』（20）などがある。

ピヤワン・サップサムラム (ニン)

行き来する東京と出身地のバンコクの間に、通訳として立つことができ、何よりも嬉しい。バンコクチームと東京チームが意見交換するたびに、その言葉の本質とニュアンスをできる限りにストレートで伝えていきたいつもり。

デジタルプラットフォームを通じてアーティストたちの五感を交換するのは、なかなか抽象的な試みでもありながら、どのように言葉の立場で応援できるのか、ということは、このプロジェクトに対する私の課題。もちろん、言葉だけでなく伝わらない部分もあると感じているけど、すごくやりがいのあるチャレンジ。心から感謝しています。



1986年生まれ、バンコク出身。小さい頃から外国語に憧れて高校から日本語を専攻した。チュラロンコン大学文学部日本語学科卒業。日本近代文学専攻修士課程修了。大学時代から、通訳・翻訳・司会者・コーディネーターとして幅広く活動しながら、アートに関わるプロジェクトをできる限りサポートしたいと強く思っている。バンコクストリートショーという大道芸フェスティバルにおいてプログラムを採択(2013-2015)。本プロジェクトには通訳者・翻訳者(タイ語-日本語)として参加。

プロジェクトの軌跡

BIPAMで作成したプロジェクト・ログはこちら

www.bipam.org/all-blogs/categories/the-city-and-the-city

	バンコク	東京
8.17	合同オリエンテーション「五感」をキーワードにお互いの都市をリサーチ	
9.7	Exchange Meeting 1 両都市共に異なるアプローチでリサーチを行い、オンラインで共有 deep into the city 五感を用いて身体の外側にある都市を探る	deep inside the body 都市の中における身体感覚のあり方を探る／ 嗅覚・触覚・味覚を視覚・聴覚で共有
9.15	Online Session 1.1 各自のリサーチ内容をオンラインで共有 東京チームへのフィードバックと質問	deep into the city のアプローチを用いたリサーチの共有 (視覚・聴覚)
9.27	Online Session 1.2 お互いの最後のプレゼンに向けたアイデアの交換 deep inside the body のアプローチを用いたリサーチの共有	最終プレゼンのアイデア: 東京、身体、生活、の三層を合わせる
10.1	Exchange Meeting 2 最終プレゼンのアイデアや準備の様子を共有 都市の中に見つけた五感を空間の中にぐちゃぐちゃに配置したい →お互いの都市の要素はどのように最終プレゼンの中に見せる?	東京で暮らしている私たちの生理的な感覚を重ね合わせたい
10.16	Online Session 2.1 最終プレゼンでお互いの都市の要素の交換についてのアイデア共有 バンコクで行われている大規模デモの様子について状況の共有 東京から共有される五感とは、はっきりとは理解や認識ができない歪んだ(Distort)状態: その手法を取り入れることを検討中	映像、パフォーマンス(食事)でバンコクの要素を取り入れることを検討中
10.30 -11.1		最終プレゼンテーション 東京芸術劇場シアターウエスト
11.3	Online Session 2.2 東京チームの最終プレゼンテーションの振り返り、11/7のオンライン・トークの開催を検討、その趣旨の共有	
11.5 -11.14	最終プレゼンテーション バンコク The Jam Factory	

●この記録は2020年10月18日時点のものとなります。●Exchange Meeting: プログラムが始まる当初から予定が組まれていた交流・伝達のためのミーティング●Online Session: プログラム開始後に追加となった短時間の時間で行われるセッション●オンラインでの共有: Facebookやdropboxを用いたExchange Meeting や Online Sessionの間のコミュニケーション●最終プレゼン終了後、それぞれの都市で行なった展示の様子を共有するために、オンラインでのバーチャルツアーを実施予定です。●交換下バーチャルツアーの様子は、完成次第、フェスティバル/トーキョーの公式HPで公開されます。